



京都工芸繊維大学 スーパーグローバル大学創成支援事業のロジックモデル

OPEN-TECH INNOVATION ～世界に、社会に、地域に開かれた工科大学構想～

インプット

事業予算

物品費

- ・設備備品費・教務
- ・システムの導入
- ・消耗品費

人件費

- ・特任教員
- ・プログラムコーディネーター
- ・国際専門職
- ・事務補佐員

謝金

- ・海外協定校からの招聘講師
- ・審査員
- ・英語教育サポート
- ・留学生サポート

旅費

- ・海外キャンパス展開に係る調査
- ・講師招聘旅費
- ・海外教職員派遣
- ・外部評価

その他

- ・システム開発・運営費
- ・文書翻訳委託費
- ・印刷製本費
- ・パンフレット作成
- ・TOEIC受験料

運営費交付金等 (基盤的経費)

- ・物品費(通信・ネット環境整備等)
- ・人件費(教職員給与)等

アクティビティ

・事業推進体制の改革

人材の魅力化への取組

- ・年俸制導入
- ・テニュアトラック制の導入

- ・世界一線級ユニット誘致
- ・海外教職員派遣事業
- ・職員国際研修

カリキュラムの魅力化への取組

・学事暦改革

・カリキュラムの英語化対応促進

- ・英語鍛え上げプログラム
- ・学生TOEIC
- ・スピーキングテスト

- ・グローバルインターンシップ
- ・PBL型授業の実施
- ・デザイン思考による異分野融合型教育の実施

- ・京都の伝統と先端に関する科目及びリーダーシップと経営に関する科目の設置

場の魅力化への取組

・国際化モデル研究室

・外国語による情報発信

- ・TECH SALONの設置
- ・OPEN TECH シンポジウム

- ・グローバルコモンズ
- ・国際的ギャラリー展開
- ・国際文化教育施設の設置
- ・混住型学生館の整備

アウトプット

- ・機動的なガバナンスの構築
- ・重点戦略機関の新設

- ・外国人教員等の増加
- ・国際通用性のある教職員の育成

- ・外国人留学生の増加
- ・研究室の国際化

- ・協定校数の増加
- ・国際共同学位プログラムの設置
- ・博士人材の増加

- ・英語で履修できるコース数等の増加

- ・日本人学生の留学増加
- ・大学が定める語学力基準を満たす学生の増加

- ・実践的な専門知識の習得

- ・技術交流拠点の形成
- ・文化交流拠点の形成

- ・京都の伝統と先端に関する科目及びリーダーシップと経営に関する科目の必修化

初期アウトカム

TECH LEADER養成のための基盤構築

■ TECH LEADER養成のための教育システムの確立

3つの魅力化によって、専門的な知識・技術を有し、グローバルな現場でリーダーシップを発揮してプロジェクトを成功に導くことができる国際高度専門技術者(TECH LEADER)に求められる4能力を習得するための教育システムが構築される。

[4能力]

- ・文化的アイデンティティ
- ・外国語運用能力
- ・専門性
- ・リーダーシップ

■ 国際ネットワークの形成

3つの魅力化によってキャンパスがグローバル化され、様々なステークホルダーを招き入れる基盤ができる。特に本学の強みと特色である重点研究分野を先駆的に国際拠点化する。

[重点拠点]

- ・KYOTO Design Lab.
- ・昆虫先端研究推進拠点
- ・先端ものづくり・繊維研究推進拠点
- ・グリーンイノベーションラボ
- ・新素材イノベーションラボ

■ グローバルキャンパス展開

- ・JD プログラム(チェンマイ大学)
- ・DD プログラム(トリノ工科大学、ベニス大学)
- ・コチュテルプログラム(オルレアン大学)
- ・海外拠点(タイ、英国、イタリア)

「閉鎖系」から「開放系」へ

中・長期アウトカム

大学のオープン化=ASIAN HUB化

人材・場・カリキュラムの魅力化によってグローバル化し、本学に国内外から知的・人的・物的資源が集い、人的・物的交流を通してオープンイノベーションの場、すなわち世界的研究者ネットワークのASIAN HUBとして認識される。



オープン化によって、形成されたグローバルな環境により学生の4能力が涵養され、あらゆる地域・場面で課題を発見し、解決できる人材であるTECH LEADERが養成される



Local ⇄ Global

世界は地域の集合により構成されている
↓
あらゆる地域で課題を発見し、解決できる人材養成

他大学への成果普及

- ・大学公式HPやSNS等を利用した国内外への活動のPR
- ・公開シンポジウム等の開催による知見の提供
- ・スピーキングテストや海外教職員派遣事業成果の学会や学会誌等での発表を介した他大学との知見の共有
- ・本学連携大学との共同教育を通じ、京都の文化芸術に係る科目の提供により学生の文化的アイデンティティの涵養を図る

イノベーション創出の拠点

地域企業等へTECH LEADERS輩出

知的・人的資源の地域社会への還元

背景

- ・産業界の海外進出が加速化する中、地元中小企業においても国際化への対応が迫られている状況下、本学は大学が有する国際的性質を加速化し、地域グローバル化の推進機関としての役割を果たすことが求められている。
- ・卒業生の約6割が京都府及び隣接府県の企業等に就職し、地元ものづくり企業において活躍する中、今後は海外に出て生産拠点を設置し、あるいは共同研究・開発を行い、世界的視野を持って技術・製品開発にあたる状況が見込まれている。

インパクト

- 研究成果の社会実装化からのイノベーションの創出による地域社会の活性化
- TECH LEADERの活躍により、京阪神企業・社会のグローバル化牽引

- ・地域社会とともに世界に進出
- ・個別の分野で特色を有し、グローバルに戦うことが出来る大学として欧米・アジアを結ぶ拠点化へ

インパクト達成に向けた他の施策・取組

- ・リカレント教育の推進
- ・COC事業
- ・COI事業
- ・産学連携協力会との研究・教育の展開
- ・高大連携事業

自走化へ向けた取組

- ・研究・産学公連携をサポートする「産学公連携推進センター」の設置
- ・京都工芸繊維大学基金事業の強化
- ・産学連携に係る規則改正
- ・共同研究施設の外部開放(有料)